

誰もが住みやすい、誰にでも優しいまちづくり ～高齢者の見守り活動～

垂井町民生委員児童委員協議会

垂井町は、まちの中央に相川が流れ、春には伊吹山をバックにこいのぼりが一杯泳ぐ姿が見られる自然豊かな町です。

古くは、美濃の国府が置かれ、美濃一宮である南宮大社が鎮座する美濃国の中心的な町でした。また、豊臣秀吉の軍師として名高い竹中半兵衛重治公ゆかりの地として、竹中氏の一族が居館としていた陣屋が残っています。関ヶ原合戦では、半兵衛の嫡男、重門公が活躍し、町の南にそびえる南宮山には西軍の毛利をはじめとする諸将が陣を置き、合戦の行方を左右する重要な場所にもなりました。町の中央には中山道が東西に延びていて、垂井の宿場は木曾路と東海道を結ぶ美濃路との追分の町として大変栄えました。

令和6年4月1日現在の人口は25,940人です。高齢化率は31.6%と高齢化が進んでいます。垂井町民生委員児童委員協議会は民生委員43名、主任児童委員3名で活動しています。

ひとり暮らし高齢者、 寝たきり高齢者介護者のつどい

高齢化社会を迎え、地域の中ではひとり暮らし高齢者や高齢者世帯が増加しています。町民児協では、見守りが必要なひとり暮らし高齢者に対し、ひとり暮らし認定をしています。認定

を受けた方は、担当地区の民生委員はもちろんです。町社会福祉協議会の職員の定期的な訪問による安否確認、年2回の友愛訪問(民生委員が手作りのお弁当(コロナ禍以降は中止していますが)やゴミ袋などを配布します)などを受けることができます。また、町民児協主催の「ひとり暮らし高齢者、寝たきり高齢者介護者のつどい」を年2回開催し、各地区のひとり暮らし高齢者や寝たきり高齢者介護者の方々に楽しんでいただいております。

現在、ひとり暮らし高齢者は202人、寝たきり高齢者の方は3人認定されています。コロナ禍で外出ができません。家で窮屈な生活を強いられていたひとり暮らし高齢者の方が、この「つどい」の再開を心待ちにしてくださっており、再開した時には、喜びの声をたくさんいただきました。また、訪問した時には、「誰とも話せず寂しかった。民生委員さんがきてくれて嬉しかった」「民生委員さんの顔が見れて会えて嬉しかった」「頼りにしています」など民生委員にとっても嬉しく励みになる言葉をたくさんいただきました。

各地区でのサロンの開催

平成18年、町社会福祉協議会から「各自治会で高齢者が気軽に集まれる場所を作してほしい」とサロンの開

催を勧められ各地区でサロンを開催しております。ここでは東地区のサロンを紹介します。毎月1回開催していたサロンですがコロナ禍でやむなく休止となり、昨年度再開することができました。内容としては、童謡、歌謡曲など10曲をギターやハーモニカに合わせて歌いますが、続けて歌うのは大変なので、コロナワクチン予防接種や成年後見人、認知症、健康、骨密度、七夕など様々な話題を交えながら進めていきました。参加者からは「楽しいね」「この会に出席するためには乳母車につかまって毎日歩いているよ」「主人を亡くし、家の中に閉じこもっていたが、今日は来てよかった。また来るね。続けてね」等の声をいただきました。サロンは地域の高齢者の健康維持、認知症予防に効果があると考え、今後も継続していきます。

また、行政への協力として、平成25年頃より、災害時などに自ら避難することが困難で、円滑かつ迅速な避難に特に支援が必要な避難行動要支援者の名簿作成に協力しています。これは各地区で見守り活動の二環として行われており高齢者だけでなく、様々な事情で困窮している世帯の発見や支援にもつながっています。

また、昨今では福祉関連の制度改正だけでなく、住民の生活様式も多様化しています。地域における住民の最も身近な相談相手であり、関係機関とのパイプ役でもある民生委員・児童委員にとって、把握すべき情報が増加し、身につけるべき知識も求めら

れています。急速に変化する社会への対応や地域が抱える課題の解決に向けて、より良い福祉サービスの情報を提供するために、資質向上を目的とした研修会を開催しています。近年では、児童虐待や認知症についての研修、災害ボランティア研修などを講師を招いて実施しました。また障がいについての知識と理解を深めるために、聴覚障害、視覚障害、知的障害者等の入所施設への見学や慰問も行っています。

地域住民のひとりである民生委員・児童委員だからこそ、地域社会やそこで生活する人々の実情を踏まえた相談支援活動や福祉の仕組み(ネットワーク)づくりの提案を行うことができる強みを生かして、誰もが住みやすい、誰にでも優しいまちづくりを推進していく一員となれたらと思っています。



「ひとり暮らし高齢者、寝たきり高齢者介護者のつどい」を各地区で開催(令和6年5月) 垂井町内